

設置の趣旨等を記載した書類

(ライフスタイル学科)

1 設置の趣旨および必要性	P2
2 学科の特色	P3
3 学部・学科等の名称及び学位の名称	P4
4 教育課程の編成および考え方及び特色	P5
5 教員組織の編成の考え方および特色	P8
6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	P9
7 施設、設備等の整備計画	P11
8 入学者選抜の概要	P12
9 取得可能な資格	P13
10 実習の具体的計画	P14
11 企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	P16
12 管理運営	P17
13 自己点検・評価	P18
14 情報の公表	P19
15 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P22
16 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P23

1 設置の趣旨および必要性

1-1 教育研究の理念、目的

本学は創立者寺部三蔵、だいが、創立して 107 年にわたり「庶民性」と「先見性」を建学の理念として教育を展開している。「庶民性」とは、一人ひとりの民が豊かになることによって国全体もまた豊かになる。そのためにも庶民の間に学問を広めるとともに、その成果を庶民の間に還元することである。「先見性」とは、来るべき社会・来るべき時代・来るべき文明を想定して、教育の理想を描くことができること、その理想像の実現に向けて人材育成のために全知全能を傾注する。また「創立者は、一人ひとりの潜在能力の無限性を信じ、その可能性の限界までの開発を終生の信条とし、真心・努力・奉仕・感謝の実践によって自らも幾多の困苦をのり越えて、それを具現化した」、この建学の理念に基づき学則を定め、教育研究を展開している。学則の第1条では本学の教育の目的として「建学の精神」の実践を通して、創立者が目指した家政の基礎となる経済的・政治的・文化的に自立することができる社会人を育成することによって、地域と国際社会に貢献している。「建学の精神」とは、宇宙の中の一つの生命体である人が、個人として自立しつつ、ありとあらゆる生命体と共生することによって、生きる意志と生きる力と生きる歓びに満ち溢れた鵬のような大局的な存在となること。第2条では、本学の教育目標は、社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能、②職業に関する専門的知識・技能、③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力・直観力・自然体を統合的に身に付けて、地域及び国際社会に貢献する社会人を育成することである。さらに、第3条で「智・徳・体・感・行」に基づいた3つの挑戦プログラムから構成される自学・共学システムを開発し、これに基づいて教育を行っている。

家政学部では、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を養成している。また、家政学部は、生活者の視点から「生活科学」「食物・栄養学」「被服学」「住居学」「児童学」の5つの分野を科学的に教育研究している。家庭生活の衣・食・住・子育てと密接に関わり、生活環境の向上を目指し、生活をデザインし、広く社会全体の人間生活の進歩・発展に貢献できる人材の育成を目標としている。

1-2 設置の趣旨

愛知学泉大の前身は女子大として、昭和 41 (1966) 年家政学部家政学科を開設し、家政学の専門知識と技能を持った女性の社会進出に貢献してきた。本学で学ぶ家政学の基本は①人の健康、家族の親切と民主的な関係②精神的な安定③経済生活の安定④適切な教育⑤こどもの出生と教育⑥科学的・芸術的な衣食住⑦伝統の保持と改善⑧地域社会、国家および人類へ貢献し、身体的、精神的、社会的な人間の成長と発達を育成することである。このことより女性の教育研究分野に限らず、家政の基礎となる経済的・政治的・文化的に自立し、地域と国際社会に貢献する人材を

育成する大学として、昭和 62(1987)年に家政学部を男女共学とした。平成 14 年(2002)に家政学専攻、管理栄養士専攻となり、平成 20(2008)年こどもの生活専攻を開設した。現在3専攻は、家政学部の教育目標の下、生活者の視点から「生活科学」「食物・栄養学」「被服学」「住居学」「児童学」の5つの分野を科学的に教育研究することにより、家庭生活の衣・食・住・子育てと密接に関わり、生活環境の向上を目指し、生活をデザインし、広く社会全体の人間生活の進歩・発展に貢献できる人材の育成を目指し教育を展開している。

家政学専攻は、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材の育成をしている。

愛知県内を中心に家政学専攻はアパレル・食品関連・住宅関連企業へ、地域密着型の就職活動をしており、地域が求める人材育成に役立ってきた。

しかし、昨今の急速に変化する時代の中で、生活環境の変化により、生活行動は個別化が加速化し、食生活、健康行動、教育、規範など生活を基盤とした生命活動の乱れが進行している。このような現代社会において、社会環境、生活環境に対応するために、益々本学の家政学教育は重要となり、個々人の生活の質・豊かな生活とは何かを問う教育課程の必要性が求められる。

21 世紀の社会は「知識基盤社会」と呼ばれるように(中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像」)、加速化するグローバル化と情報化の進展などにより、国を超えて社会の在り方そのものが根底から再構築されようとしている。本学の家政学部も中央教育審議会「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化(答申)」を踏まえ、家政学部の教育を多様化して学習者の様々な需要に的確に対応するため教育課程の見直しを行った。

現在の家政学部の教育目標の下、既存の家政学専攻の教育課程を、より専門性に特化した教育を実践するライフスタイル学科として設置する。

1-2 養成する人材象

ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住および地域活性の面から以下の3項目を身に付けた人材を養成する。

① 建学の精神、社会人基礎力、pisa 型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる。

② ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付け、地域再生に貢献することができる。

③ 自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる。

2 学科の特色

2-1 教育課程編成の基本方針

新設学科の前身は家政学専攻である。この教育目標を基盤として、ライフスタイル学科の教育課程を段階的に編成している。

本学科は、人々の豊かなライフスタイルを実現するために、デザイン・フード・ビジネスなどの分野から新しい暮らしの提案者を育成する教育課程を編成する。学びの3つの分野として「空間・情報デザイン」「食開発・マネジメント」「ビジネス・地域活性」を配置している。

1年次は、幅広い家政系の学びを通じて、興味・関心を持たせるための基礎科目を配置、2年次・3年次は、めざす進路を見据えた専門性の向上と地域連携による体験型授業を配置している。4年次は社会を意識し、専門性の理解を深める卒業研究を編成している。

「空間・情報デザイン」の分野は、ファッション造形実習、カラーコーディネート、インテリアデザインの基本から専門性を深める科目構成をしている。3年次からは、ソーシャルメディアの活用科目を配置している。「食開発・マネジメント」の分野は、1年次に生体や食品の基礎を学ぶ科目を、2年以降は食品の特性を学ぶ食品機能論、食品加工学を配置している。「ビジネス・地域活性」の分野は地域の暮らしと生産、リサーチリテラシー科目を、2年次以降は地域の特性を把握する地域ブランド論、マーケティング、サブカルチャー論、イベントプロデュースなど配置している。

2-2 新学科の必要性

家政学科家政学専攻は、家政学専攻の教育目標は、大学の教育目標・教育方針の下に、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成する質の高い生活の提案、実践を通して人材教育を行ってきた。しかし 21 世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめとする領域の活用が飛躍的に重要性を増す知識基盤社会の時代と言われている。サイバー空間とフィジカル空間を融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立させる、人間中心の Society となり、Internet of Things により全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、新たな価値を生み出す時代へと入る。このような時代を見据えて、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会を構築する上で、一人一人が快適で活躍できる社会を築くためには、社会と生活を結ぶ空間と情報のデザイン、食生活を豊かにする食のマネジメント、地域を活性化するビジネスの専門知識が必要とされる時代となり、本科の教育目標である、社会の新しいライフスタイルのデザインを提案する人材を養成するために、新学科の設置が必要となった。

3 学部・学科の名称および学位の名称

学部の名称は従来通り家政学部であり(英文名称:Faculty of Home Economics)、「ライフスタイル学科」(英文名称:Department of Life Style)とする。学位は従来通り「学士(家政学)」(英文名称:Bachelor of Home Economic)とする。

4 教育課程の編成の考え方および特色

4-1 学部教育課程の方針

家政学部のライフスタイル学科は、学部共通科目 24 単位以上、専門科目 96 単位以上、総計 124 単位以上取得する。

家政学部の教育目標を達成する教育方針の下、学科の教育課程の編成を構成している。

家政学部の教育課程の方針(カリキュラムポリシー)は以下の通りである。

- 主体的・対話的で深い学びを実践する学修行動を育成する授業を実践。
- 課題を解決するために必要な知識・情報等を獲得・活用し解決する授業を実践。
- 本学の教育方針と3学科の専門性を明確にする初年次教育科目を置く。
- 複合領域の科学として総合性・独自性を理解するために、人文科学、社会科学、生活学分野の教養分野と保健体育分野、外国語分野を基礎分野として置く。
- 実践的総合科学としての家政学の各分野を専門的に学ぶために、3 学科の専門科目を置く。
- 講義で修得した内容を実証するために、各分野に実習・実験科目を置く。
- 4 年間の学修の集大成として、必修科目として卒業論文・卒業研究を置く。
- 3学科の専門性に対応するキャリア形成を促進するために、資格関連の科目を置く。

4-2 教育課程編成の基本方針

中央審議会答申「我が国の高等教育の将来像」で示された「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、特色ある人材を養成するにあたり、ライフスタイル学科の学位授与(ディプロマポリシー)の方針は以下の通りである。

ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住および地域活性の面から社会形成を支援することができる人材を育成します。正規のカリキュラムの所定の単位を修得した者には卒業を認定し、学士(家政学)の学位を授与します。学位を授与するにあたって重視する項目は以下の通りである。

建学の精神、社会人基礎力、pisa 型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる。

ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付けて、地域再生に貢献することができる。

自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる。

4-3 学科の特色

ライフスタイル学科では、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住および地域活性の面から支援することができる人材を育成することを目標としており、家政学、生活学が本学科の中心的な研究分野となるが、そもそも家政学、生

活学は学際的な研究であり、そこに包含される被服学や栄養学、食品学、住居学はもとより社会学、工学、心理学、教育学なども教育研究の分野となる。

4-4 教育課程編成の考え方

ライフスタイル学科では、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住および地域活性の面から支援することができる人材を育成することを目標としており、家政学、生活学が本学科の中心的な研究分野となるが、そもそも家政学、生活学は学際的な研究であり、そこに包含される被服学や栄養学、食品学、住居学はもとより社会学、工学、心理学、教育学なども研究の範囲である学問領域であることを元に教育課程を編成している。

ライフスタイル学科の教育課程は以下の通りである。

カリキュラムは、家政学部3学科共通の共通科目とライフスタイル学科の専門科目及び家庭科教員免許取得のための自由科目から構成されている。授業形態は、講義・演習・実習の3タイプからなるが、すべての科目において、グループワークの機会を設定し、また地域と連携した内容の授業科目を各年次に配置することによって、社会人基礎力・pisa 型学力を育成していく。

また、各科目の関連性を明確化するためにカリキュラムマップを作成している(資料① カリキュラムマップ)。

〈共通科目〉

共通科目は社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等を学修するために置かれた家政学部共通のカリキュラムで、「教養分野」「保健体育分野」「外国語分野」の3分野から編成されている。

「教養分野」では、家政学・自然科学・人文科学・社会科学に関する基礎的な知識・技能を学修する。「保健体育分野」では、講義と実技を通して身体と健康に関する基礎的な知識・技能を学修する。「外国語分野」では、異文化を理解する上で必要な基礎的な知識・技能を学修する。

初年次教育として未来へつなぐアウトリーチスタートアップ及び未来へつなぐアウトリーチⅠを配置している。未来へつなぐアウトリーチⅠでは、PDCA(P:計画、D:実施、C:チェック、A:修正)サイクルを活用して、家政学の核となる衣・食・住・消費活動などの生活環境の視点から地域の課題を発見し、その課題解決を目指す。

共通科目からは24単位以上の取得が必要となる。この中で、潜在能力の開発、生活経済論、生活学概論、家族論、未来へつなぐアウトリーチスタートアップ、未来へつなぐアウトリーチⅠの計10単位が必修である。その他、教養分野、保健体育分野、外国語分野から14単位以上を履修する。ただし、外国語分野は、2単位を必修としている。

〈専門科目〉

専門科目は、これからの時代の新しいライフスタイルを創造しうる能力を持った生活者および衣・食・住および地域活性のエキスパートを育成するための科目として編成されている。

専門科目のカリキュラムは、「ライフスタイル学基幹科目群」を基軸に、「デザイン(空間・情報)の

分野」「食品開発・マネジメントの分野」「ビジネス・地域活性の分野」の3分野から編成されている。これらの専門科目群により、生活に関する専門的知識・技能を獲得し、それを活用しながら、自らを含む地域社会の課題を解決する方策を実践的に学修する。

「ライフスタイル学基幹科目群」では、生活に対する基本的視座を涵養するためにライフスタイル学基礎講座、ライフスタイル学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと国内研修旅行を、生活に関する基礎的知識を獲得するために、衣・食・住の各領域の概論(衣生活論・食生活論・住生活論)を必修科目として置く。また、4年間の学修の集大成となる卒業研究もこれに含む。

「デザイン(空間・情報の分野)」では、身体の近接環境である衣服やインテリアおよび情報環境をデザインするために必要な知識・技能を学修する。「食品開発・マネジメントの分野」では、食品開発に必要な食文化、食品、栄養、調理に関する知識・技能を学修する。「ビジネス・地域活性の分野」では、地域の問題を収集、分析、整理して課題解決の提案をするために必要な知識・技能を学修する。

3分野のうちいずれかの分野を中心的に履修し、その他の分野の科目を補完的に選択することによって、専門性を培うことが可能となる。ただし生活を理解し、新しいライフスタイルのデザインを提案するために必要な科目として、衣・食・住に関する基礎的実習(ファッション造形実習Ⅰ、基礎調理実習、インテリアデザインⅠ)と衣・食・住の各文化論(服飾文化論、世界の食文化、住文化論)、リサーチリテラシー、プレゼンテーション基礎、ビジュアルプレゼンテーション演習を必修科目として置く。また各分野には、学修内容をより実践的に応用し、新しいライフスタイルをデザインするための素地を養うためにPBL型の科目、スタジオA(空間・情報・デザイン)、B(食開発)、C(地域活性)を選択必修科目として置く。

専門科目として96単位以上の取得が必要となる。そのうち必修科目が37単位、選択必修のスタジオA(空間・情報・デザイン)、B(食開発)、C(地域活性)4単位を含めると41単位となる。

卒業には共通科目と専門科目合計で124単位を必要とする。

〈自由科目〉

卒業要件単位の他に「中学校、高等学校の教諭(家庭)」の資格を取得するために必要な科目として、22科目44単位を置く。

履修順序(配当年次)

1～2年次を中心に、共通科目、外国語科目を履修し、広く社会を見ることのできる教養を修得する。さらに1年次に専門科目を学ぶための導入教育として、読解力、数読理解(計算含む)のリメディアル教育プログラムを設定している。1～2年次にはこれらと並行して、専門科目のうちライフスタイル学科の学修の基礎となる必修科目(卒業研究を除く)を中心に配当している。学年が上がるにつれ徐々に各分野の専門性が高くなり、3年次のスタジオA(空間・情報・デザイン)、B(食開発)、C(地域活性)と4年次の卒業研究によって4年間の学修が統合される。

5 教員組織の編成の考え方および特色

5-1 教員配置の方針

本学の専任教員は、①本学建学の精神及び教育理念に相応しい人間性と、②十分な教育研究能力を有することが求められる。ライフスタイル学科に所属する専任教員数は8人であり、大学設置基準を満たしており、「デザイン(空間・情報)の分野」「食品開発・マネジメントの分野」「ビジネス・地域活性の分野」の3分野それぞれに複数名の教員が配され、衣・食・住および地域活性に関する主要科目と家庭科教員養成に関する主要科目をそれぞれ担当している。6人が博士の学位を2人が修士の学位を有している。

なお、令和2年4月に設置する前年度(平成30年度)に大学設置基準における必要な人数を、新規採用教員を含めて配置し、設置前から教育の質を担保してこれまで同様に、きめ細かな学生指導をするための準備を整えている。

5-2 教員組織の年齢構成

学科設置(令和2年4月)の教員構成は表1に示す。教授5人、講師3人が確定している専任教員8人である。年齢構成は表2に示す。教授5人の平均年齢59.8歳、講師3人の平均年齢は43.0歳であり、全体の平均年齢は51.4歳、全体としての年齢構成は「30歳～39歳以下」1人、「40歳～49歳以下」1人、「50歳～59歳以下」3人、「60歳～66歳以下」3人であり、50歳代を中心とした教員配置である。

なお、教員の定年は、「定年規程」(資料②)第3条に示すとおり満65歳である。また「定年退職後専任教員に関する内規」(資料③)では定年後、特に必要がある教員の場合は、70歳を上限として、65歳を超えても理事長が特に必要と認めた場合は採用することができる制度を整備している。

表1 ライフスタイル学科教員構成

職位	令和2年度 (設置予定年度)	学部の種類に応じて 定める専任教員基準	家庭科教員養成施設基準	教科・教職設置基準
教授	5人	6人 (内 教授3人)	中学校・高校(家庭科)4人(内教授1人)	教科4人 教職2人(内教授1人)
准教授				
講師	3人			
計	8人			

表2 ライフスタイル学科教員の年齢構成

職位	60 歳代	50 歳代	40 歳代	30 歳代	計	平均年齢
教授	3 人	2 人			5 人	59.8
准教授					0	
講師		1 人	1 人	1 人	3 人	43.0
計	3 人	3 人	1 人	1 人	8 人	51.4

5-3 研究分野・研究体制

教員の研究面については、各領域内で、講師、助教に至る全教員が研究計画を持って、積極的に研究に取り組む体制をとる。研究費については、個人研究費に加えて、学内の教員による共同研究、所管の研究所、企業等との調査および実験的研究に備え、学内研究奨励費等がある。また、研究内容については、専門科目の領域分野の教育研究および家庭科教員を養成する学問分野であり、それぞれの専門領域を研究する学会に所属し、教育研究を精力的に取り組んでいる。また、担当する学問分野について卒業論文の指導を全教員が担当する。

6 教育方法、履修指導方法および卒業要件

6-1 単位の算定基準および卒業要件

①単位の算定

単位の算定基準は、愛知学泉大学学則(第19条)に定める。授業科目の単位数は、以下の通りである。

講義科目は、15 時間の授業をもって 1 単位とする。

演習科目は、30 時間の授業をもって1単位とする。

実験・実習および実技科目については、45 時間の授業をもって1単位とする。

②卒業要件

卒業要件は、共通科目 24 単位(うち必修科目 10 単位、外国語分野選択必修 2 単位以上)、専門科目 96 単位(うち必修科目 37 単位、選択必修科目 4 単位)を修得、総計 124 単位以上修得することである。「デザイン(空間・情報)の分野」「食品開発・マネジメントの分野」「ビジネス・地域活性の分野」の各分野で活躍する人材の育成を目的としたカリキュラムを編成していることから、別表の履修モデルを提示する。併せて中学、高校の家庭科教員の資格取得に関わる履修モデルを提示する(資料④)。

なお、年次に応じて段階的に無理なく単位修得できるように、各年次において履修登録できる卒業要件科目の単位数の上限を 48 単位(集中講義、学外実習を除く)としている。

③教育方法および授業の方法

ライフスタイル学科における授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については原則として講義形式の授業形態をとる。必要に応じて少人数グループ学修、学生の参加型学修等双方向の学修を展開する。学生の主体的能動的な深い学びによる知識や技能の定着を目的とする教育内容については演習形式の授業形態をとる。また、技術技能の修得を目的とする教育内容については、実験・実習形式の授業形態をとる。

④学生数の設定

教育目的を効果的かつ確実に達成するために、授業科目ごとの授業形態に則して、講義形式、実験・実習・演習形式において40名を上限としている。

⑤配当年次

年次進行に伴い、基礎知識を得るに必要な科目から専門知識を修得させる科目へと、体系的な学習が可能となるよう授業科目を配置する。また、ライフスタイルの知識の幅を広げる教養を得るに必要な科目が履修できるように1年次と2年次を中心に配置する。

⑥履修科目の登録上限

段階的に学修効果を高めるために、年間の履修単位の上限を48単位とする。

⑦厳格な成績評価

卒業時の学生の質を担保する観点から予め学生に対し、授業における学修目標やその目標を到達度するための授業の方法、計画等を明示する。また、社会人基礎力(学修態度)は、学部で統一されたルーブリックによる成績評価基準に基づき厳格な評価をする。さらに、成績評価にあたっては、各授業科目において、授業時間数の3分の1を超えた学生には、単位を与えないことを規程(学則第5章21条)に表記し、出欠席の管理も厳格に行っている。

⑧シラバスの作成

学生の4年間の履修計画を支援するために、全ての授業科目についてシラバスを作成し、科目の概要、学修内容、到達目標、社会人基礎力、成績評価の方法(筆記試験、小テスト、レポート、成果発表、作品、社会人基礎力(学修態度)および評価の観点、到達目標の基準、週ごとに学修内容、授業実施方法、到達レベルC基準、予習・復習とその時間、授業で活用する社会人基礎力を分かり易く記載し、学生の学修に役立てる。

⑨担任制の導入

学生の履修状況、学修状況、学生生活に関わる相談に応じ、学生の状況に合わせた個別指導体制を整えている。また、本学の特色である社会人基礎力の育成についても担任による支援体制を整えている。

⑩履修指導方法

社会の新しいライフスタイルをデザインする提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住および地域活性の面から社会形成を支援することができる人材を育成するカリキュラムに加え「家庭科教員」、「フードスペシャリスト」、「商品プランナー」「スポーツインストラクター」の資格取得のための必要な科目も含まれ編成されている。資格の取得は最終目的ではないが、学生のキャリア教育

の一つとして、資格も視野にいれて学ぶように指導する(資料⑥履修モデル)。

履修モデルは「空間・情報デザイン」「食開発・マネジメント」「ビジネス・地域活性」「中学校教諭(家庭)」「高等学校教諭(家庭)」の5つ履修モデルから構成されている。

履修モデル④-1は「空間・情報デザイン」の分野では、カラーコーディネートやデジタルデザイン、写真や動画編集などの技能を修得し効果的な SNS 配信などの知識と技能を修得できる。

履修モデル④-2は「食開発・マネジメント」の分野では、食品の機能や加工の知識と技能を学び、ランチやスイーツなどの開発、食品の流通やマネジメントなどの知識と技能を修得できる。

履修モデル④-3は「ビジネス・地域活性」の分野では、心理学やメディア論を中心にサブカルチャーや地域ブランドについて考察し、効率的なプレゼンテーション方法や様々なイベントのプロデュースなどの知識と技能を修得できる。

履修モデル④-4と5は「中学校教諭(家庭)」「高等学校教諭(家庭)」の分野は、教職の知識と技能を修得できる。

⑪学位論文の作成に関連する研究活動

卒業論文については、4年間の集大成として位置づけていることから必修科目としている。これに必要な調査研究、実験研究、文献研究および事例研究の成果と時間を考慮し、大学設置基準第21条の規程に合わせて、通年4単位を必修科目として付与する。

⑫CAP 制

ライフスタイル学科については、1年間の登録上限(CAP制)単位数を48単位とする。理由としては、本学では、1単位と認める時間数は、設置基準では45時間(授業15時間+事前・事後学修30時間)の学修が必要である。1年間で48単位の場合、1440時間(48単位×30時間)の予復習時間の確保が必要となる。これを1日の予復習の時間に換算すると約300分(1440時間×45分÷30週÷7日)となり、学生の十分な学修時間が確保でき、実施可能な予復習時間としては妥当と判断する。

⑬他大学における授業科目の履修について

大学間の交流を促進し単位互換協定を締結した大学に所属する学部学生が、所属する大学以外の協定大学の授業科目を履修し、修得した単位をその学生の所属する大学の単位として認定する制度を設けている(学則第24条)。また、本学学生以外の者で、本学の授業を受講しようとする者に科目等履修生として授業科目を受講させ単位を与えることができる(学則第54条)。さらに、入学前に大学(短期大学)において履修した授業科目について入学後、本学の授業科目の履修により修得したものとする単位互換ができる。

7 施設・設備等の整備計画

7-1 校地等の整備計画

この度の設置計画は、既設の家政学科家政学専攻、管理栄養士専攻、こどもの生活専攻をライフスタイル学科、管理栄養学科、こどもの生活学科に改組する計画である。入学定員190人、収容

定員 760 人は既設の家政学科と同じであり、教育課程も大きな変更はない。現有の校地等は基準を十分充足し、大学教育に相応しい環境を有しており、新たな整備は計画していない。

8 入学選抜の概要

8-1 受け入れの方針

本学が養成する人材像や各学科で学べるカリキュラム等は大学要覧・ホームページ等にし、請求のあった高校や生徒・保護者へ広く告知することとしている。また、受験生に配布する学生募集要項には入学生の受け入れの方針(アドミッションポリシー)・建学の精神・教育目標等を掲げ、この方針に基づき多様な選抜方式を実施する。入学受け入れの方針は、以下の通りである。

・ライフスタイル学科のアドミッションポリシー

ライフスタイル学科では、愛知学泉大学の掲げる建学の精神を尊重し、衣・食・住を中心とした暮らしに関わる様々な事象に強い関心を抱き、より良い生活のあり方を提案しうる能力を持った生活者及び衣・食・住の領域のエキスパートとして社会に貢献したいという意欲を持った人を求める。そこで、次に掲げるような人を積極的に受け入れる。

(A)学力の3要素について

(A-1)基礎的・基本的な知識・技能について

国語、地歴・公民、生物・化学、数学、英語、家庭科に関する高等学校卒業レベルの基礎学力を身につけている。

(A-2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について

日常生活の中から課題を発見し、それらの課題に対して自分の考えを持つことができる。

他者の考えを理解し、自分の考えと合わせて課題を分析することができる。

適切な表現方法を選択し、自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

(A-3)主体的に学習に取り組む意欲・関心・態度について

衣・食・住をはじめとして家族・家庭、地域、環境など暮らしに関わる様々な事象に強い関心を持っている。

大学での学びの過程で、社会人基礎力を伸ばし、pisa 型学力を身につけたいと考えている。

建学の精神を実践し、自己の特性を伸ばしつつ、社会に貢献したいと考えている。

(B)行動特性について

何事に対しても積極的に取り組み、継続して努力することができる。

様々な課題の解決に向けて深く考察し、複数のアイデアを提案できる。

内容を整理しながら聞き、わからないことは進んで質問をすることができる。

社会のルールに則り、自らの言動を適切に律することができる。

(C)評価について

知識・技能については、記述式の筆記試験および調査書で確認する。

思考力・判断力・表現力等については、記述式の筆記試験および面接で確認する。

体的に学習に取り組む態度については、面接および調査書で確認する。

動特性については、面接および調査書で確認する。

以上よりライフスタイル学科の教育目標に関心を持ち、本学で学修する意欲と感心の高い学生を受け入れる。

8-2 選抜方法

ライフスタイル学科 40 名を募集する。専門分野の知識・技術を修得していくために必要な基礎学力のある学生を推薦入試、一般入試、センター試験利用入試、特別入試により選抜する。

指定校推薦入試は、本学への進学実績のある高校に対し、評定平均値の指定を行い、各高校長の推薦を受けた受験生について、面接・調査書により合格者を決定する。

推薦入試は、2 回(前期・後期)実施する。いずれも基礎学力テスト(ライフスタイル学科は現代国語)を必須とし、このほかに面接・調査書(評定平均値と資格・検定・課外活動等)を加味して総合的に判定する。

一般入試は 2 回(前期・後期)実施する。A 方式(3 科目型)・B 方式(2 科目型)から受験生が選択できる方式を採用し、A 方式を選択した受験生は B 方式も自動的に判定できるシステムとしている。科目は国語・英語・日本史・数学・生物・化学から 3 科目または 2 科目を選択する。

センター試験利用入試は 2 回(前期・後期)実施する。ライフスタイル学科は、国語・英語より高得点 1 科目、「地歴・公民」・数学・情報・理科より高得点 1 科目の 2 科目(200 点満点)で判定する。

AO 入試は管理栄養学科が 1 回、ライフスタイル学科は 3 回(前期・中期・後期)実施する。AO 入試では、学科理解のためオープンキャンパスへの参加を義務づけている。エントリー後、ライフスタイル学科はプレゼンテーションと面談を実施し、面談で適格と認められた受験生のみが出願できるシステムを採用している。出願後、面談結果と調査書により判定する。

その他、特別入試として社会人入試、外国人留学生入試、3 年次編入学入試(全身の専攻として実施)があり、広く門戸を開いている。いずれも小論文と面接により判定する。なお、社会人入試は「4 年以上の社会的経験を有する者」を出願条件に定めている。

9 取得可能な資格

本学科で取得可能な資格は以下のとおりである。

中学校教諭一種免許<家庭>

免許法施行規則第 66 条の 5 で定める科目 8 単位, 教科に関する科目 34 単位(必修), 教職に関する科目 33 単位(必修), 教科又は教職に関する科目(選択必修 1 単位以上)

高等学校教諭一種免許<家庭>

免許法施行規則第 66 条の 5 で定める科目 8 単位, 教科に関する科目 34 単位(必修), 教職に関する科目 29 単位(必修)

※教職に関する科目は全て自由科目。

フードスペシャリスト

フードスペシャリストになるための必修科目 24 単位 (必修)

※認定試験に合格する必要がある。

商品プランナー

商品プランナーになるための必修科目 2 単位 (必修)

※認定試験に合格する必要がある。

スポーツインストラクター

スポーツインストラクターになるための必修科目 3 単位 (必修)

※認定試験に合格する必要がある。

商品装飾展示士3級

※認定試験に合格する必要がある。

10 実習の具体的計画

ア 実習の目的

ライフスタイル学科では、中学校、高等学校の教諭(家庭)免許取得を希望する学生に対して、臨地実習としてボランティア活動A(介護等体験実習)、教育実習 A(中学校)、教育実習 B(高校)を置いている。

ボランティア活動A(介護等体験実習)では、人と関わり、人を支援するうえで大切にすべき視点や姿勢を実践的に学ぶ。

教育実習では、中学校・高等学校の社会的意義を把握して、その教育課程の実際とその内容の程度、指導の重要性を体験的に確認することと、青年期を迎え、精神的・肉体的に最も変化に富み、顕著な発達を示す時期の生徒の実態に直接触れ、それぞれの実態に即応する指導のあり方を初歩的・基礎的に修得する。さらに、指導の重要性を体験的に確認することを通して、中学校、高等学校の教諭としての使命感、責任感を養う。

イ 実習先の確保の状況

実習施設名、所在地を記載した実習施設一覧は、資料⑤で示す。

ウ 実習先との契約内容

介護等体験実習、教育実習ともに実習先と特別な契約は交わしていない。ただし、実習中に知り得た情報に関する守秘義務および SNS に関する注意などは、事前指導で厳格に注意するとともに、違反に関する実習取消しなどの懲罰について学生周知を徹底する。

エ 実習水準の確保の方策

実習水準を確保するため、次のような要件を履修細則に定め、学生に周知するとともに日常的に指導を行う。

①実習の前年度までに開講された教職科目は原則としてすべて修得済みであること。

②介護等体験実習の事前指導および事後指導に怠りなく出席した者。

③学力及び適性が実習生として適当であると学科において認めた者。

さらに、実習を通じて以下の項目を修得するよう、実習事前指導および事後指導を行う。

①各施設(教育実習では中学校・高等学校、ボランティア活動A(介護等体験実習)では特別支援学校・社会福祉施設)における社会的な役割や意義を理解する。

②各施設での職員、教員の勤務のあり方や心構え、責任感や義務などについて理解する。

③教育における実践的な知識・技能を活用するための手段について、実習前の模擬授業によって体験的修得をする。

④実習先でのマナーや健康について、社会性を有した対応ができ、かつ自身の健康管理が十全にできるような自己管理能力を培う。

また、成績評価については、各施設によって評価された内容を重視し、実習記録(日誌)の記述内容と総合して成績評価を確定する。こうした一連の行程についてあらかじめ学生への周知徹底を図り、実習先での体験がどのように将来反映されるかを具体的に示し、実習に対する意思を明確にすることで、大学教育としてふさわしい実習水準を確保している。

オ 実習先との連携体制

各実習において、事前に実習先に「実習のお願い」文書とともに実習生の「身上書」を送付し、実習に対する連携を図る。また実習における指導の具体的方針を示す手段として、実習開始前に「実習の手引き」を実習先に送付し、実習に臨む姿勢や実習の意義等について確認し合うことで、実習が適切に行われるための方策を構築する。

カ 実習前の準備状況

社会福祉施設での介護等体験実習において、実習先よりの指示がある場合には検便検査およびその結果を実習先へ提出する。また、実習中に知り得た情報に関する守秘義務およびSNSに関する注意などは、事前指導で厳格に注意するとともに、違反に関する実習取り消しなどの懲罰について学生周知を徹底する。※ウと同様

キ 事前・事後における指導計画

教育実習指導において実習に関する事前指導を行い、実習後にも同科目において事後指導を行う。介護等体験実習では、授業外で学生を招集し、実習における注意事項の説明としての事前指導および、実習後の振り返りの機会を設け事後指導を行う。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

実習について巡回指導の割り当てに関し、専任教員全教員で均等配分する。各教員が担当する巡回施設は、教育実習、介護等体験実習ともに1、2校(施設)程度であり、無理のないスケジュール

ルを組むことが可能である。ほとんどの巡回指導教員は自家用車で巡回であるが、自家用車を所有しない教員については公共交通機関での移動になるため、交通手段に支障が出にくい実習先を選定して巡回を行なう。また実習先が遠隔地の場合は、実習期間中に電話連絡にて実習生の様子を確認しながら、指導について協議を行なう。

ケ 実習施設における指導者の配置計画

教育実習校では、教育実習生受け入れの体制が整えられており、校長、教頭、学年主任などから一般的な留意事項の説明や校務分掌の説明がなされる他、実習期間中の指導担当の教員が決められており、その教員の担当クラスを受け持ちながら指導教員の指導を受けることになる。

介護等体験実習では社会福祉法人愛知県社会福祉協議会により、法令に根拠を有する社会福祉施設が実習先として割り当てられており、その施設の職員から指導を受けることになる。

コ 成績評価体制及び単位認定方法

実習の評価は、実習先に「実習評価表」を送付し、評価表における詳細な項目についての評価を取得、実習記録(日誌)の記述内容と総合して成績評価を確定する。

サ その他特記事項

特になし

11 企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

ア 実習先の確保の状況

ライフスタイル学科では、3年次前期に選択科目としてインターンシップを置いている。この科目では自らの専門、将来のキャリアに関連した実務を経験する。これにより、専門科目の学習効果を高めるとともに、実社会に即した職業観、職業意識を修得させる。実習期間は夏季休暇中の1～2週間で、事前指導、事後指導を行い、学習の定着と発展を図る。また、これに先立って2年次後期にインターンシップ論を置き、3年次のインターンシップに必要な準備を行う。社会や企業の動きと企業の目的や考え方を学び、ビジネス社会のルールやマナー、常識を身に付ける。企業活動の事例を学習し、企業の方からの講話を聞き、アドバイスをいただく。就職活動への心構えも養う。

インターンシップの実習先については、学生から希望を調査し、各受入れ先との調整を図る。実習施設名、所在地を記載した実習施設一覧は、資料⑥で示す。

イ 実習先との連携体制

実習先には事前に「インターンシップの概要」文書を送付し、その後、実習前の打ち合わせにより

実習に臨む姿勢や実習の意義等について確認し合うことで実習が適切に行われるための方策を構築する。また、学生に身上書・誓約書持参の事前訪問をさせ、さらに、実習中の巡回により実習中の問題などについて、迅速に対応し連携を図る。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

インターンシップ概要に基準を示して企業に成績評価を依頼、事前事後指導時の学修状況も合わせて成績評価と単位認定を行う。

エ その他特記事項

特になし

12 管理運営

大学の管理運営に関する意思決定組織は、運営委員会、教授会、学部会議、教務委員会、学生委員会、就職委員会をはじめとする各種委員会を整備している。

本学の管理運営に関する意思決定組織及び権限と責任については、「学校法人安城学園管理規程」で明確に定めている。教授会、運営委員会、教務委員会、学生委員会、就職委員会等の職務と権限と責任については規程に明確に定めている。

学長は、「校務を掌り、所属職員を総督する。」と定め、本学の統括・運営にあたる学長の権限と責任が明確に定めている。また、学部長の権限と責任は同規程第6条に「学部長は、所属学部の教育研究部門を指導監督する。」と定め、学部の運営については学長の指示により学部長に委任する体制ができています。

学長は部長、事務局長、事務長の理解と協力の下に教学面における管理運営体制が出来ています。さらに、併設短期大学(愛知学泉短期大学)との調整が必要な案件に関しては、大学・短期大学管理運営者会議を設置し、大学・短期大学レベルの情報共有、意思統一を図っている。

1. 教授会

教授会は2学部の教授のみで開催し、議題は、学長が決定を行うに当たり、教育研究の専門的な観点から意見を述べる事となっており、議題は学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与、その他、教育研究上の重要事項であり年5回開催している。

2. 学部会議

学部会議は、学部構成員全員(学長、副学長、教授、准教授、専任講師、事務長)が出席し、毎月1回開催し。議題は学長が決定を行うに当たり、教育研究の専門的な観点

3. 関連委員会

①運営委員会

運営委員会は大学の目的を組織的に執行する上で必要な教育研究に関するマネジメントをする目的で設置しており、主な議題は大学の事業計画を執行する上で必要な教育研究に関する事項、

学長の諮問事項、理事長の諮問事項を毎月1回開催し 審議している。

②各種委員会

各種委員会は 教務委員会、カリキュラム委員会、FD 委員会、自己点検評価委員会、学生委員会、就職委員会、入試委員会、国際交流委員会、図書委員、情報教育委員会、ハラスメント委員会、人と動物に関する実験倫理委員会、まちづくり委員会、地域連携ボランティア委員会、大学3つのポリシー策定委員会があり、毎月1回会議を開催し、規程に基づく決定事項、検討事項、事業進捗の確認等実施している。各委員会の責任者は運営委員会に出席し、各委員会の検討事項や進捗状況について報告をし、また、運営委員会の決定事項の内、各委員会担当する事項について事業を推進する実務組織として働いている。

また、学科運営委員会、専攻運営委員会があり、毎月1回、それぞれの事業推進と点検を行っている。

13 自己点検・評価

自己点検・評価

本学は教育研究の向上のため、愛知学泉大学自己点検評価委員会を組織し、大学運営の全般の点検評価を行い、「愛知学泉大学自己点検報告書」にまとめている。

大学の自己点検の実施方法は、各担当分掌等から、毎年度の事業計画に基づく活動を9月の中間事業報告、3月に業報告書として提出される。愛知学泉大学自己点検・自己評価委員会は大学・短期大学管理運営者会議、運営委員会と協働し、中間事業報告書、事業報告書を基に実施状況、到達度、問題点などを点検評価し、改善が必要な点は、フィードバックしPDCAサイクルを回し改善を図っている。

自己点検評価委員会のメンバーは、学長、副学長、各学部の学部長、各学部の教務委員長、各学部の学生委員長、事務長であり、全学的な視野に立ち自己点検評価を行える体制を担保している。また、自己点検評価委員会は、事業計画書により各学部・各種委員会の課題と到達目標を把握し、運営委員会、教授会、学部会議を通じ、活動状況の報告を受け情報を共有している。学部、各種委員会等の担当部署において、日常的な点検・評価活動を行い、全教職員が自己点検・評価活動に参画し推進している。

自己点検評価委員会では、毎年度の事業報告書を基に、機関別認証評価機関「日本高等教育評価機構」が定める評価項目に沿って点検・評価結果について、毎年、愛知学泉大学自己点検評価報告書としてまとめている。自己点検・評価報告書は、学内の図書館、関係部署に置き、学外に対しては、大学ホームページ上で公表し、周知に努めている。

現状の把握のために必要な調査やデータ及び資料を十分に収集し、活動状況を分析している。収集したデータは事務局、教務課、学生課、就職課等の関係部署で保管するだけでなく、IR 室を設置し、一元的なデータの作成・収集・分析を進め、大学改善、大学運営に反映させている。

本学は、日本高等教育評価機構による認証評価を受審している。平成22年度、平成29年度の2回受審し、日本高等教育評価機構が定める評価基準すべてにおいて、適合している認定書を受領している。また、複数の評価基準においては、優れた点取り組みとして機構から公表されている。

14 情報の公表

本学の目的は「建学の精神」の実践を通して、創立者が目指した経済的、政治的・文化的に自立できる社会人を育成する事によって、地域と国際社会に貢献することである。」である。本学は、法令を遵守し、社会倫理、社会規範に則った法人運営・大学運営を行い、法人内の諸活動のみならず、学外の関係者、関係組織、関係機関に対する諸活動においても構成と誠実につとめ、社会から継続的な信頼が得られるよう取り組んでおります。情報公開については、「適切な情報管理」の基、積極的な情報公開を通じて説明責任を果たし、教育研究の成果の普及及び活用に資するため、下記に示すように、教育研究活動状況の公表を積極的に行っています。

ア 大学の教育研究上の目的に関する事

愛知学泉大学学則に建学の精神、大学の教育目標、学部学科の教育目標を明示し、HP で公表しています。

大学の教育目標

<http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/kyouikumokuhyou.pdf>

学部・学科・専攻の教育目標

<http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/idea.html>

三つのポリシー

家政学部アドミッションポリシー

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/admi_policy.pdf

家政学部カリキュラムポリシー

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/curri_policy_kasei.pdf

家政学部ディプロマポリシー

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/diplo_policy_kasei.pdf(

現代マネジメント学部カリキュラムポリシー

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/curri_policy_manage.pdf

現代マネジメント学部ディプロマポリシー

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/diplo_policy_manage.pdf

イ 教育研究上の目的に関する事

(1) 大学学則第9条

<http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/kyouikumokuhyou.pdf>

ウ 教員組織、教員数、並びに各教員が有する学位及び業績

本学の研究の組織図 次で公表

<http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/kyouinsuu.pdf>

(2) 教員の学位・業績 次に公表

家政学専攻 <http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle02/teacher.html>

管理栄養士専攻 <http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle01/teacher.html>

こどもの生活専攻 <http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle03/teacher.html>

現代マネジメント学部 <http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/teacher.html>

エ 入学者受け入れ方針入学者の数

(1) 入学者受け入れ方針

家政学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/admi_policy.pdf

現代マネジメント学部 募集停止

(2) 収容定員

在学学生数 <http://www.gakusen.ac.jp/u/exam/index.html>

卒業又は修了者の数進学者及び、就職者数、

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/admi_number.pdf

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/grad_number.pdf

その他の就職情報

家政学部 <http://www.gakusen.ac.jp/u/career/okazaki.html>

現代マネジメント学部 <http://www.gakusen.ac.jp/u/career/index.html>

オ 授業科目、授業の方法、および内容並びに年間の授業計画に関する事

履修の手引き及びシラバスについて次で公表

カリキュラムポリシー

家政学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/curri_policy_kasei.pdf

現代マネジメント学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/curri_policy_manage.pdf

履修の手引き

家政学部 家政学専攻

<http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle02/sirabasu/kaseiguide2019.pdf>

家政学部 管理栄養士専攻

<http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle01/sirabasu/kaneiguide2019.pdf>

家政学部 こどもの生活専攻

<http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle03/sirabasu/koseiguide2019.pdf>

現代マネジメント学部

<http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/sirabasu/guide2019.pdf>

シラバス

家政学専攻 <http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle02/curriculum.html>

管理栄養士専攻 <http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle01/index.html>

こどもの生活専攻 <http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/lifestyle03/curriculum.html>

現代マネジメント <http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/curriculum.html>

カ 学修の成果にかかる評価及び卒業認定に当たっての基準に関する事、
履修の手引きに認定等の基準を明記し次の URL で公表している。

試験・成績基準

家政学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/hyouka_kasei.pdf

現代マネジメント学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/hyouka_manage.pdf

キ 校地・校舎等の施設及びその他学生の教育研究環境に関する事

本学の校地・校舎・施設概要について次の URL で公表している。

キャンパス所在地 <http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/access.html>

岡崎キャンパス施設 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/institution_o.html

豊田キャンパス施設 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/institution_t.html

ク 授業料、入学金その他大学が徴収する費用に関する事

学費・その他の経費に関する情報

<http://www.gakusen.ac.jp/u/exam/tuition.html>

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等にかかる支援に関する修学・進路選
択・健康等の支援についてはキャンパウライフに記載し次の URL で公表している。

修学について

家政学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/images/student/office_kasei30z.pdf

現代マネジメント学部

http://www.gakusen.ac.jp/u/images/student/office_genma30a.pdf

進路についての支援

家政学部 <http://www.gakusen.ac.jp/u/career/okazaki.html>

現代マネジメント学部 <http://www.gakusen.ac.jp/u/career/index.html>

健康等の支援

家政学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/student/o_index.html

現代マネジメント学部 http://www.gakusen.ac.jp/u/student/t_index.html

コ その他

(1)教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報は履修の手引きに記載し次の URL で公表している。

(1)学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

<http://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/sirabasu/guide2019.pdf>

学則等各種規程については次の URL で公表、

学則 <http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/kyouikumokuhyou.pdf>

自己点検評価報告書

<http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/report2015.pdf>

(4)認証評価結果に関する情報

http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/hyouka_houkoku01.pdf

15 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

1. FD 委員会

本学の人材を育成する教育目標を実現するために必要な教育の教育力を向上させる研修および教育に関する研究活動を全学的・組織的に推進することを目的に FD 委員会を設置している。FD 委員会の組織は、学長を中心に組み立てられ、規程で定めた教職員で構成されている。FD 活動の具体的な内容は次にあげる項目を実施している。

① シラバス内容の確認

科目担当教員が作成した次年度のシラバス内容を、教育目標を達成するために適切な授業計画の立案、授業方法、成績評価法などがされているか確認する。改善が必要な場合は、科目担当教員は修正を行い、より適正なシラバスを学生に配付している。

② 学生による授業評価アンケート

学生による授業評価アンケートは、授業改善の一貫として前期・後期、全科目を対象に実施している。アンケート項目は、科目担当者の授業展、シラバスの活用、授業外(予習・復習)、学生の学修態度について実施している。科目担当教員は、集計結果を元に授業改善のリフレクションペーパーを作成する。全科目の授業評価結果と教員が作成したリフレクションペーパーは、冊子にまとめ教務課、図書館で公開している。

③ 専任教員による公開授業

教員間での教育能力向上及び教育改善に関する認識の共有化を図ることを目的に、毎年、前後期でテーマを決め、全教員が参加する公開授業を実施している。昨年度は前・後期ともに「社会人基礎力(学修態度)を評価する教授法を学ぶ」を目的に授業参観を実施した。参観の観点「①

発揮の対象とする能力要素、②発揮させる方法、③評価の方法、④学生を支援する方法」について、自己の担当科目へ取り入れる参考部分をまとめ報告している。

④ FD 研修会

家政学部は、毎年前期・後期に2回研修会を開催している。

社会人基礎力(学修態度)の評価方法に関する研修会

本学は教育目標である社会人基礎力の育成を授業内で育成することを目的に、社会人基礎力(学修態度)を成績評価として導入している。教員の授業改善への取り組みとして「学修行動特性評価シートを使った社会人基礎力(学修行動)の評価法」について、授業の実践例(栄養教育論)を紹介し評価法を学部全体で共有化する取り組みを行っている。

⑤ ティーチング・ポートフォリオに関する研修

本学の教育の質の向上と自らの教育活動の自己省察、そのためのエビデンス、優れた授業、熱心な指導の共有化を図るためのT・Pの導入を目的に研修会を実施した。テーマは「教育改善のための『ティーチング・ポートフォリオ(T・P)の必要性、教育効果および構成要素』等について学び、T・Pの導入を目指す」をテーマに実施している。

16 社会的・職業的自立に関する指導および体制

ア 教育課程内の取り組み

ライフスタイル学科では、社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培うために、経済産業省が推奨する「社会人基礎力」をベースにした本学独自の社会人基礎力育成プログラムに準じて、すべての授業において社会人基礎力の伸長を意識した授業を行う。

初年時の共通科目に未来へつなぐアウトリーチスタートアップ、未来へつなぐアウトリーチⅠを必修科目として設置し、全学生参加を原則としたボランティア活動を行ない、活動の振り返りのプレゼンテーションを通して人間関係形成・社会形成能力、課題対応能力の基礎を養う。また、2年次後期から3年次にかけては、インターンシップの実施と就職支援プログラムとしてインターンシップ論、インターンシップ、キャリアデザイン講座が配置されている。インターンシップ論、インターンシップでは仕事の現場を体験的に確認し、組織の一員としての使命感、責任感を育成することが目指されている。キャリアデザイン講座では適性検査、自己分析を行い、自分に合った進路の選択を考える能力を育成することと、様々な業種・職種で活躍する社会人及び先輩の講話を聴き自分の能力を社会貢献につなげていくための能力の適格性、開発方法、心構えなどを育成することが目指されている。なお、中学校、高等学校教諭を目指す学生に対しては教職課程委員会と連携して「教員採用試験対策講座」を開設する。

イ 教育課程外の取り組み

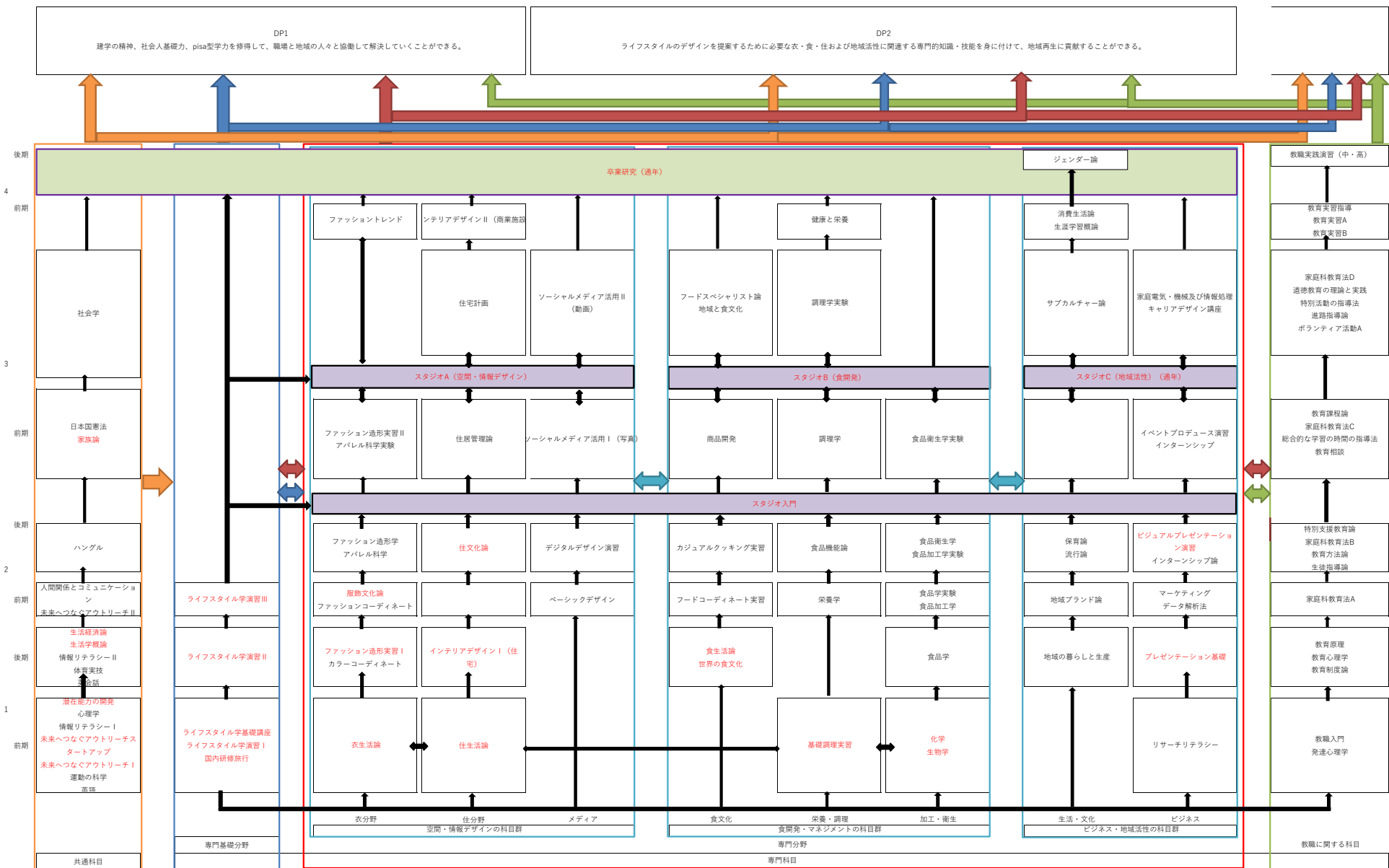
特になし。

ウ 適切な体制の整備

学生の社会的・職業的自立への支援は、就職指導委員会を中心として、教務委員会、学科長および専任教員により体制を整えている。また、就職指導委員には各学科より教員を1人選出し、学生の進路支援をしている。

教育課程内の取り組みとして、初年次より学科のキャリア教育の基礎となるライフスタイル学を修得することにより、キャリア意識を高め専門職への科目選択ができるようにカリキュラム構成をしている。

教育課程外の支援体制は、就職指導課より企業展、就職情報の提供、就職ガイダンスの実施、キャリアカウンセリング、資格試験などを実施している。就職指導課の人員は、3人(専任職人2人と非常勤1人)できめ細かいキャリア支援、専門職への支援を実施している。



定年規程（大学・短期大学）

（目的）

第 1 条 この規程は、愛知学泉大学及び愛知学泉短期大学の専任職員の定年及び定年退職に関する事項を定めるものとする。

（専任の職員）

第 2 条 専任の職員とは、愛知学泉大学又は愛知学泉短期大学に本務として常時勤務する職員のことをいう。

2 「大学の教員等の任期に関する法律」に基づいて採用された任期制教員は専任職員である。

（定年）

第 3 条 専任の職員の定年は、次の通りとする。

(1) 教育職員 満 65 才

(2) 事務職員 満 60 才

2 特に必要がある場合、定年を延長することができる。

3 助手及び研究補助員は事務職員に含める。

（定年退職の日）

第 4 条 職員は定年に達した日の属する年度末に退職する。

（定年後再雇用）

第 5 条 専任の職員が定年に達したとき、特に必要がある場合、定年後専任職員あるいは非常勤職員として再雇用することができる。

（定年後の給与・退職手当）

第 6 条 第 5 条に該当する者の給与、退職手当は、次の通りとする。

1. 引きつづき勤務させる者の場合

(1) 給与はその者が定年に達した当時の給与額を最高として新たに決定する。

(2) 退職手当はその者が退職する際に支給する。

(3) この場合の勤務期間は在職年数に加算する。

2. 退職後再雇用する者の場合

(1) 給与は新たに決定する。

(2) 退職手当は定年退職の際に支給する。

（定年退職者への特別の待遇）

第 7 条 学園を定年で退職した者には、次の待遇が与えられる。

定年退職時に、本人の子が本学園の設置する学校に在学しており、授業料等の減免に関する待遇を受けているときは、当該学校在学の間そのまま継続される。

2 第 1 項における「在学中」とは、園児の場合、最大 3 年間、高校生の場合、最大 3 年間、短大生の場合、最大 2 年間、大学生の場合、最大 4 年間とする。

（定年退職の手続き）

第 8 条 各設置校の長は、毎年度 7 月 30 日までに当該年度の定年退職予定者を理事長に提出する。

- 2 法人事務局長は、定年退職予定者に対し、その者の退職日の 30 日前までに退職に関する一件書類を送付する。

(適用除外)

第 9 条 理事長が特に指定した職にある職員については、定年に関する規程を適用しない。

附 則 (施行期日)

- 1 この規程は昭和 58 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程は平成 3 年 3 月 28 日から改正施行する。
- 3 この規程は平成 11 年 10 月 29 日から改正施行する。(第 3 条定年年令変更)
- 4 この規程は平成 26 年 4 月 1 日から改正施行する。
- 5 この規程は平成 30 年 4 月 1 日から改正施行する。

定年退職後専任教員に関する内規(愛知学泉大学)

(目的)

第1条 この内規は「定年規程(大学・短期大学)」第5条により学校法人安城学園の経営する大学を定年退職した専任教員を定年退職後専任教員として採用する場合に必要な事項を定めることを目的とする。

(特任教員)

第2条 理事長が特に必要と認めた場合、大学を定年退職した専任教員の中から専任教員(以下、「特任教員」と称する。)を再雇用することが出来るものとする。

2 この特任教員は設置基準上の専任職員である。

(年令制限)

第3条 特任教員として勤務出来る年齢の上限は満70才とする。

(勤務)

第4条 特任教員は専任教員の職務を行うものとする。

2 業務内容は雇用契約で定めるものとする。

(給与等)

第5条 特任教員については、その者が退職した時点の本俸と校務手当の合計額の6割以上の給与を毎月支給する。

2 手当については通勤手当を支給する。

3 給与として支給するのは第1項と第2項に掲げたもののみである。

(契約期間)

第6条 契約期間は1年間を原則とする。

附 則

1 この内規は平成26年4月1日から施行する。

2 この内規の施行により「愛知学泉大学・愛知学泉短期大学教育職員の定年の特例適用者に対する内規」は廃止する。

ライフスタイル学科履修モデル①

資料④-1デザイン(空間・情報)の分野を軸とした履修モデル

区分		1年		2年		3年		4年		計						
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
共通科目	教養分野	潜在能力の開発	2	生活経済論	2	人間関係とコミュニケーション	2	日本国憲法	2		20					
		心理学	2	生活学概論	2		家族論	2	社会学	2						
		情報リテラシーⅠ	1	情報リテラシーⅡ	1											
		未来へつなぐアウトリーチスタートアップ	1													
		未来へつなぐアウトリーチⅠ	1													
	保健体育分野	運動の科学	2	体育実技	1					3						
	外国語分野	英語	1	英会話	1		ハングル	1			3					
共通科目計		10	7	2	1	4	2	0	0	26						
専門科目	ライフスタイル学 基幹科目群	ライフスタイル学基礎講座	2	ライフスタイル学演習Ⅱ	2	ライフスタイル学演習Ⅲ	2	スタジオ入門	2	卒業研究	卒業研究	4	26			
		ライフスタイル学演習Ⅰ	2	食生活論	2		インターンシップ論	1	インターンシップ	2	キャリアデザイン講座	2				
		衣生活論	2													
		住生活論	2													
		国内研修旅行	1													
	デザイン(空間・ 情報)の分野			カラーコーディネート	2	服飾文化論	2	アパレル科学	2	アパレル科学実験	2	ファッショントレンド	2	36		
				ファッション造形実習Ⅰ	2	ファッションコーディネート	1	ファッション造形学	2	ファッション造形実習Ⅱ	2					
				インテリアデザインⅠ(住宅)	2	住文化論	2	住宅計画	2	住居管理論	2	インテリアデザインⅡ(商業施設)	2			
						ベーシックデザイン	2			デジタルデザイン演習	1					
										ソーシャルメディア活用Ⅰ(写真)	1	ソーシャルメディア活用Ⅱ(動画)	1			
	食品開発・マネ ジメントの分野												16			
			基礎調理実習	2		栄養学	2									
					フードコーディネート実習	2	カジュアルクッキング実習(製菓・カフェ)	2			地域と食文化	2				
					食品加工学	2	食品加工学実験	2								
	ビジネス・地域 活性の分野					世界の食文化	2						20			
			リサーチリテラシー	2	プレゼンテーション基礎	1	マーケティング	2	ビジュアルプレゼンテーション演習	1						
					地域の暮らしと生産	2	地域ブランド論	2		流行論	2	サブカルチャー論		2	消費生活論	2
							データ解析法(統計学を含む)	2		ジェンダー論	2					
専門科目計		13	13	23	14	16	11	4	4	98						
合計		23	20	25	15	20	13	4	4	124						
教職に関する科目											0					
教職に関する科目		0	0	0	0	0	0	0	0							
総計		23	20	25	15	20	13	4	4	124						

※ 表中のゴシック文字は必修科目、その他は選択科目。

ライフスタイル学科履修モデル②

資料④-2 食品開発・マネジメントの分野を軸とした履修モデル

区分		1年		2年		3年		4年		計			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
共通科目	教養分野	潜在能力の開発	2	生活経済論	2	人間関係とコミュニケーション	2	日本国憲法	2	20			
		心理学	2	生活学概論	2		社会学	2					
		情報リテラシーⅠ	1	情報リテラシーⅡ	1								
		未来へつなぐアウトリーチスタートアップ	1										
		未来へつなぐアウトリーチⅠ	1										
	保健体育分野	運動の科学	2	体育実技	1					3			
外国語分野	英語	1		中国語	1	ハングル	1			3			
共通科目計		10	6	3	1	4	2	0	0	26			
専門科目	ライフスタイル学 基幹科目群	ライフスタイル学基礎講座	2	ライフスタイル学演習Ⅱ	2	ライフスタイル学演習Ⅲ	2	スタジオ入門	2	卒業研究	卒業研究	4	
		ライフスタイル学演習Ⅰ	2	食生活論	2		インターンシップ論	1	インターンシップ	2	キャリアデザイン講座	2	
		衣生活論	2										
		住生活論	2										
		国内研修旅行	1										
	デザイン(空間・ 情報)の分野			カラーコーディネート	2	服飾文化論	2						
				ファッション造形実習Ⅰ	2	ファッションコーディネート	1						
				インテリアデザインⅠ(住宅)	2	住文化論	2						
								デジタルデザイン演習	1				
								ソーシャルメディア活用Ⅰ(写真)	1	ソーシャルメディア活用Ⅱ(動画)	1		
	食品開発・マネ ジメントの分野	化学	2	食品学	2	食品学実験	2	食品機能論	2	調理学	2	調理学実験	2
		生物学	2			栄養学	2	食品衛生学(食関連法規)	2	食品衛生学実験	2	健康と栄養	2
		基礎調理実習	2			フードコーディネート実習	2	カジュアルクッキング実習(製菓・カフェ)	2	商品開発	2	地域と食文化	2
						食品加工学	2	食品加工学実験	2				
						世界の食文化	2				フードスペシャリスト論	2	
	ビジネス・地域 活性の分野							スタジオB(食開発)	2	スタジオB(食開発)	2		
		リサーチリテラシー	2	プレゼンテーション基礎	1	マーケティング	2	ビジュアルプレゼンテーション演習	1				
				地域の暮らしと生産	2	地域ブランド論	2					消費生活論	2
						データ解析法(統計学を含む)	2						
	専門科目計		17	15	23	12	12	11	4	4	98		
合計		27	21	26	13	16	13	4	4	124			
教職に関する科目										0			
教職に関する科目		0	0	0	0	0	0	0	0				
総計		27	21	26	13	16	13	4	4	124			

※ 表中のゴシック文字は必修科目、その他は選択科目。

ライフスタイル学科履修モデル③

資料④-3 ビジネス・地域活性の分野を軸とした履修モデル

区分		1年		2年		3年		4年		計					
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
共通科目	教養分野	潜在能力の開発	2	生活経済論	2	人間関係とコミュニケーション	2	日本国憲法	2	21					
		心理学	2	生活学概論	2	家族論	2	社会学	2						
		情報リテラシーⅠ	1	情報リテラシーⅡ	1										
		未来へつなぐアウトリーチスタートアップ	1												
		未来へつなぐアウトリーチⅠ	1	未来へつなぐアウトリーチⅡ	1										
	保健体育分野	運動の科学	2	体育実技	1					3					
	外国語分野	英語	1	英会話	1	中国語	1	ハングル	1		4				
共通科目計		10	7	4	1	4	2	0	0	28					
専門科目	ライフスタイル学 基幹科目群	ライフスタイル学基礎講座	2	ライフスタイル学演習Ⅱ	2	ライフスタイル学演習Ⅲ	2	スタジオ入門	2	卒業研究	卒業研究	4			
		ライフスタイル学演習Ⅰ	2	食生活論	2		インターンシップ論	1	インターンシップ	2	キャリアデザイン講座	2			
		衣生活論	2												
		住生活論	2												
		国内研修旅行	1												
	デザイン(空間・ 情報)の分野			カラーコーディネート	2	服飾文化論	2				ファッショントレンド	2			
				ファッション造形実習Ⅰ	2										
				インテリアデザインⅠ(住宅)	2	住文化論	2	住宅計画	2	住居管理論	2				
									デジタルデザイン演習	1					
									ソーシャルメディア活用Ⅰ(写真)	1	ソーシャルメディア活用Ⅱ(動画)	1			
	食品開発・マネ ジメントの分野								調理学	2	調理学実験	2	健康と栄養	2	
		基礎調理実習	2		栄養学	2	フードコーディネート実習	2	カジュアルクッキング実習(製菓・カフェ)	2	商品開発	2	地域と食文化	2	
					世界の食文化	2									
	ビジネス・地域 活性の分野	リサーチリテラシー	2	プレゼンテーション基礎	1	マーケティング	2	ビジュアルプレゼンテーション演習	1	イベントプロデュース演習	1				
				地域の暮らしと生産	2	地域ブランド論	2	保育論	2	流行論	2	サブカルチャー論	2	消費生活論	2
						データ解析法(統計学を含む)	2			ジェンダー論	2	家庭電気・機械及び情報処理	2	生涯学習概論	2
										スタジオC(地域活性)	2	スタジオC(地域活性)	2		
専門科目計		13	13	18	10	17	13	8	4	96					
合計		23	20	22	11	21	15	8	4	124					
教職に関する科目												0			
教職に関する科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0					
総計		23	20	22	11	21	15	8	4	124					

※ 表中のゴシック文字は必修科目、その他は選択科目。

ライフスタイル学科履修モデル④

資料④-4 高等学校の家庭科教員になるための履修モデル

区分		1年		2年		3年		4年		計					
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
共通科目	教養分野	潜在能力の開発	2	生活経済論	2	人間関係とコミュニケーション	2	日本国憲法	2		17				
				生活学概論	2		家族論	2							
		情報リテラシーⅠ	1	情報リテラシーⅡ	1										
		未来へつなぐアウトリーチスタートアップ	1												
		未来へつなぐアウトリーチⅠ	1		未来へつなぐアウトリーチⅡ	1									
	保健体育分野	運動の科学	2	体育実技	1					3					
	外国語分野	英語	1	英会話	1	中国語	1	ハングル	1		4				
共通科目計		8	7	4	1	4	0	0	0	24					
専門科目	ライフスタイル学 基幹科目群	ライフスタイル学基礎講座	2	ライフスタイル学演習Ⅱ	2	ライフスタイル学演習Ⅲ	2	スタジオ入門	2		21				
		ライフスタイル学演習Ⅰ	2	食生活論	2					卒業研究		卒業研究	4		
		衣生活論	2												
		住生活論	2												
		国内研修旅行	1												
	デザイン(空間・ 情報)の分野			ファッション造形実習Ⅰ	2	服飾文化論	2	アパレル科学	2	アパレル科学実験	2	21			
				インテリアデザインⅠ(住宅)	2	住文化論	2	ファッション造形学	2	ファッション造形実習Ⅱ	2				
						住宅計画	2	住居管理論	2	デジタルデザイン演習	1				
	食品開発・マネ ジメントの分野	化学	2	食品学	2	食品学実験	2		調理学	2	調理学実験	2	38		
		生物学	2		栄養学	2	食品衛生学(食関連法規)	2	食品衛生学実験	2		健康と栄養		2	
		基礎調理実習	2		フードコーディネート実習	2	カジュアルクッキング実習(製菓・カフェ)	2		地域と食文化	2				
					食品加工学	2	食品加工学実験	2							
					世界の食文化	2									
	ビジネス・地域 活性の分野	リサーチリテラシー	2	プレゼンテーション基礎	1	マーケティング	2	ビジュアルプレゼンテーション演習	1	スタジオB(食開発)	2	スタジオB(食開発)	2	20	
				地域の暮らしと生産	2			保育論	2				消費生活論		2
						データ解析法(統計学を含む)	2		ジェンダー論	2	家庭電気・機械及び情報処理	2	生涯学習概論		2
	専門科目計		17	13	20	17	15	8	6	4	100				
合計		25	20	24	18	19	8	6	4	124					
教職に関する科目	教職に関する科目	教職入門	2	教育原理	2		教育方法論	2	教育課程論	2	進路指導論(キャリア教育を含む)	2	37		
		発達心理学	2	教育心理学	2		特別支援教育論	2	総合的な学習時間の指導法	2	特別活動の指導法	2			
				教育制度論	2		生徒指導論	2	教育相談(カウンセリングを含む。)	2	道徳教育の理論と実践	2			
					家庭科教育法A	2	家庭科教育法B	2							
											教育実習指導	1		教職実践演習(中・高)	2
										教育実習A	2				
教職に関する科目		4	6	2	8	6	6	3	2						
総計		29	26	26	26	25	14	9	6	161					

※ 表中のゴシック文字は必修科目、その他は選択科目。

ライフスタイル学科履修モデル⑤

資料④-5 中学校の家庭科教員になるための履修モデル

区分		1年		2年		3年		4年		計					
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
共通科目	教養分野	潜在能力の開発	2	生活経済論	2	人間関係とコミュニケーション	2	日本国憲法	2	19					
		心理学	2	生活学概論	2	家族論	2								
		情報リテラシーⅠ	1	情報リテラシーⅡ	1										
		未来へつなぐアウトリーチスタートアップ	1												
		未来へつなぐアウトリーチⅠ	1	未来へつなぐアウトリーチⅡ	1										
	保健体育分野	運動の科学	2	体育実技	1					3					
外国語分野	英語	1	英会話	1	中国語	1	ハングル	1		4					
共通科目計		10	7	4	1	4	0	0	0	26					
専門科目	ライフスタイル学 基幹科目群	ライフスタイル学基礎講座	2	ライフスタイル学演習Ⅱ	2	ライフスタイル学演習Ⅲ	2	スタジオ入門	2	卒業研究	卒業研究	4			
		ライフスタイル学演習Ⅰ	2	食生活論	2										
		衣生活論	2												
		住生活論	2												
		国内研修旅行	1												
	デザイン(空間・ 情報)の分野			ファッション造形実習Ⅰ	2	服飾文化論	2	アパレル科学	2	アパレル科学実験	2				
				インテリアデザインⅠ(住宅)	2	住文化論	2	ファッション造形学	2	ファッション造形実習Ⅱ	2				
						住宅計画	2	住居管理論	2	デジタルデザイン演習	1				
	食品開発・マネ ジメントの分野	化学	2	食品学	2	食品学実験	2		調理学	2	調理学実験	2	健康と栄養	2	
		生物学	2			栄養学	2	食品衛生学(食関連法規)	2	食品衛生学実験	2				
		基礎調理実習	2			フードコーディネート実習	2	カジュアルクッキング実習(製菓・カフェ)	2		地域と食文化	2			
						食品加工学	2	食品加工学実験	2						
						世界の食文化	2								
	ビジネス・地域 活性の分野	リサーチリテラシー	2	プレゼンテーション基礎	1	マーケティング	2	ビジュアルプレゼンテーション演習	1	スタジオB(食開発)	2	スタジオB(食開発)	2		
				地域の暮らしと生産	2			保育論	2			消費生活論	2		
						データ解析法(統計学を含む)	2			ジェンダー論	2	生涯学習概論	2		
	専門科目計		17	13	20	17	15	6	6	4	98				
合計		27	20	24	18	19	6	6	4	124					
教職に関する科目	教職に関する科目	教職入門	2	教育原理	2		教育方法論	2	教育課程論	2	進路指導論(キャリア教育を含む)	2	42		
				教育心理学	2		特別支援教育論	2	総合的な学習時間の指導法	2	特別活動の指導法	2			
				教育制度論	2		生徒指導論	2	教育相談(カウンセリングを含む。)	2	道徳教育の理論と実践	2			
					家庭科教育法A	2	家庭科教育法B	2	家庭科教育法C	2	家庭科教育法D	2			
									ボランティア活動A(介護等体験実習)	1	教育実習指導	1		教職実践演習(中・高)	2
										教育実習B	4				
教職に関する科目		2	6	2	8	8	9	5	2						
総計		29	26	26	26	27	15	11	6	166					

※ 表中のゴシック文字は必修科目、その他は選択科目。

教育実習先一覧＜教科「家庭」＞（平成29年度実績）

（中学校）

実習校名	所在地
岐阜県高山市立松倉中学校	岐阜県高山市上岡本町4-119
名古屋市立萩山中学校	愛知県名古屋市瑞穂区市丘町1-48
西尾市立寺津中学校	愛知県西尾市巨海町若宮西5番地

（高等学校）

実習校名	所在地
神戸龍谷高等学校	兵庫県神戸市中央区中島通5-3-1
愛知県立松平高等学校	愛知県豊田市鷺ヶ瀬町桐山1
岡崎城西高等学校	愛知県岡崎市中園町川成98
安城学園高等学校	愛知県安城市小堤町4-25
静岡県沼津市立沼津高等学校	静岡県沼津市三枚橋字鐘突免673
静岡県立小笠高等学校	静岡県菊川市東横地1222-3
静岡県立袋井高等学校	静岡県袋井市愛野2446-1
愛知県立岡崎商業高等学校	愛知県岡崎市栄町3-76
愛知県立南陽高等学校	愛知県名古屋市港区大西2-99
岡崎城西高等学校	愛知県岡崎市中園町川成98
京都精華学園高等学校	京都府京都市左京区吉田河原町5-1

教育実習先一覧＜教科「家庭」＞（平成30年度実績）

（中学校）

実習校名	所在地
なし	

（高等学校）

実習校名	所在地
岡崎城西高等学校	愛知県岡崎市中園町川成98
愛知県立碧南高等学校	愛知県碧南市向陽町4丁目12
愛知啓成高等学校	愛知県稲沢市西町1丁目1番41号
聖カピタニオ女子高等学校	愛知県瀬戸市西長根町137
岡崎城西高等学校	愛知県岡崎市中園町川成98
安城学園高等学校	愛知県安城市小堤町4-25
藤ノ花女子高等学校	愛知県豊橋市老松町109

教育実習先一覧＜教科「家庭」＞（平成31年度予定）

（中学校）

実習校名	所在地
新城市立千郷中学校	愛知県新城市杉山字道目記24番地
豊橋市立本郷中学校	愛知県豊橋市高師本郷町字竹ノ内90番地の1
名古屋市立南陽中学校	愛知県名古屋市港区春田野3丁目121
大治町立大治中学校	愛知県海部郡大治町堀之内半之返791

（高等学校）

実習校名	所在地
岐阜県立大垣桜高等学校	岐阜県大垣市墨俣町上宿465番地1
岡崎城西高等学校	愛知県岡崎市中園町川成98
愛知県立三谷水産高等学校	愛知県蒲郡市三谷町水神町通2番地1
長野県松本第一高等学校	長野県松本市浅間温泉1－4－17
岡崎城西高等学校	愛知県岡崎市中園町川成98

インターンシップ先一覧

(平成28年度実績)

実習先名	所在地
豊田市役所	愛知県豊田市西町3丁目60
湖西市商工会	静岡県湖西市鷺津332-8
菊川市役所	静岡県菊川市堀之内61

(平成29年度実績)

実習先名	所在地
名鉄観光バス株式会社	愛知県名古屋市熱田区神宮三丁目6番34号
株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ アクアガーデン迎賓館	愛知県岡崎市康生通南2-56-1
オンワード樫山	名古屋市中村区名駅南4-11-31

(平成30年度実績)

実習先名	所在地
株式会社日東醸造	愛知県碧南市松江町6丁目71番地
株式会社ロピア	愛知県清須市下津町北下河原1-4